

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078100114		
法人名	有限会社 フリーウィル		
事業所名	グループホーム こよみ		
所在地	〒834-1213 福岡県八女市黒木町本分1405番地 0943-42-4516		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果確定日	平成24年01月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風の平屋づくりで、温もりが感じられる。また、自然環境に恵まれ自然を一望できる、大きな窓があり開放的で、暖かい陽が差し込むリビングに続くウッドデッキは、段差もなく利用者が自由に出入りできるようにしている。利用者スタッフとの距離感を常に意識して、利用者寄り添って時間を共有しながら一日一日過ごしていけるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八女市郊外の自然環境に恵まれた中に、小規模多機能ホーム併設のグループホーム「こよみ」がある。オーナーの介護に対する思いを、職員が理解し、利用者の「自由意志、自由選択」を理念の柱として、利用者の目線に立ち、介護する職員の様子は、穏やかで、優しく、利用者寄り添い、それを見ている家族のホームに対する信頼は、深いものがある。また、かかりつけ医と協力医、常勤看護師による、利用者の健康管理体制は、細かいところまで、気配りが行き届き、重度化してきた利用者の、心のケアまで、任せられる介護サービスを実践している。オーナーで管理者の自宅が隣にあり、24時間365日の介護支援体制は、充実し、看取りの支援も実施し、職員の介護に対する意識は高く、地域に密着したグループホームとして、今後も期待したいグループホーム「こよみ」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年01月12日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由意志・自由選択」をスタッフみんなが見える所へ掲げている。またその意味について、スタッフへ伝えケアに活かしている。	利用者一人ひとりがその人らしく、尊厳を持って暮らせるためのホーム独自の理念、「自由意志・自由選択」を掲げ、ミーティング等で話し合い職員の理解を深め、実践に向けたケアに繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に会えば挨拶を行い、地域のスーパーに買い物に行ったり、おでかけしたり、外出がなかなか出来ない方は、地域のボランティア団体の慰問等にて交流を図っています。また、地域の学生さんの実習施設としても受け入れ交流を図っています。	利用者と職員は、地域行事に参加し、親しかった住民と、買い物や散歩時に歓談したり、学生の実習受け入れや、ボランティアの訪問等、交流の輪が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症をお持ちのご家族が対応の仕方に困って、相談にこられた際は、対応の仕方をいろいろ説明したり、ストレスがたまってある際は、お話をただ聞いたりしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催され、幅広い意見交換の場となっている会議を通じて、外部の意見を聴き、出された意見を参考にしてホームの運営に反映させている。	会議は、行政職員、民生委員等の参加により、2ヶ月毎に参加され、ホームの現状、行事、課題等の報告、参加者から質問、要望等を聴きだし、双方向的会議として、ホーム運営に反映させている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことは、悩む前にすぐに市に連絡を行い、解決が少しでも早く出来るよう相談している。情報交換や相談だけではなく、グループホームとしての役割等について指導して頂いている。	運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を把握したうえで、アドバイス等ももらっている。また、行政担当窓口に出向き、報告や相談をして連携をとっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束をは行っていない。安全対策として安全ベルトを使用する場合はご家族に承諾を頂き使用開始とする。やむを得ない場合以外は、のびのびありのままに過ごせるように支援している。	身体拘束に関する資料を揃え、職員に説明し、理解してもらっている。安全面に配慮して、家族の了解をとったうえで安全ベルトをすることもあがるが、原則として身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者が嫌な気分にならないように、スタッフは、心理的虐待を行わないように声かけ・対応に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいない。権利擁護や成年後見制度の資料を整備し、いつでも相談に対応出来るようにしている。また相談あれば、市と相談しながら調整していきたいと思っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意し、研修を行い、理解を深め、利用者や家族が必要とした時は、いつでも説明し、関係機関に橋渡し出来る体制がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、詳しく説明おこなうが、自宅に帰ってから再度契約書を読み直されるように声かけを行うように心がけている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情受け付け窓口を掲示している。また、面会時に利用者の状態報告を行いながら、家族の意向を伺いながら、日々の介護サービスに活かしている。	意見箱や苦情受付窓口の設置をしているが、家族の面会時や電話等で、直接意見や要望を聴いている。また、ホーム便りを発行し、利用者の近況を報告し、家族が安心出来る体制が整っている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は毎月開催し、意見交換を常に行っている。出された意見をスタッフ全員で検討し、介護サービスとホーム運営に反映出来るように努力している。	毎月職員会議を開催しているが、皆が気づいた事や意見を出しやすい雰囲気作りを努めているため、活発に意見が出され充実した会議となっている。出された意見は、関係者で検討し、出来るだけ反映出来るように工夫をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ全員の得意分野を把握して、役割を与えている。皆勤手当や能力に応じて昇級など行っている。また、スタッフ同士の当選会を行い、ボーナスと別に当選1位2位に臨時ボーナスを追加でわたしている。このことで、スタッフ同士の向上心につながればと思っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、年齢・性別の制限はなく、人柄とやる気を重視し、職員がイイイと働き易い環境になるように工夫している。	管理者は、職員一人ひとりが生き生きと仕事が出来るように、特技や性格を取り込んだ介護サービスが出来体制を作り上げている。また、職員採用制度は、年齢、性別の制限はなく、定年後も再雇用等に配慮し、休憩室も設け、働きやすい職場環境を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回、行政の研修に参加している。参加者による研修報告会を実施して、全員で利用者の人権尊重に取り組んでいる。	行政主催の人権研修会に職員が交代で参加し、内部研修会で報告し、職員全員が理解し、共有出来る体制がある。また、啓発活動にも力を入れ、利用者の尊厳を守る取り組みを実践している。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回、八女市内の施設であっている研修にスタッフが随時参加して、研修報告している。外部の施設の情報を知ることも良い勉強となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームを見学したり、記録物・1日の流れ等、情報交換を行いながら、お互いにとってプラスになるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご家族と一緒に本人さんに見学に来て頂いたり、初日目は近隣の利用者と臨席して頂いたり、スタッフが常に声かけを行うように心がけている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を検討してある際に、ご家族の困っていることなど伺いながら、その方にとって、ご家族にとって必要なことを把握して、サービスの内容・方法を提案して実施している。まず、話しやすい環境を整えている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を伺い、他のサービス機関のほうが、その方にとってプラスになるような際は、他の機関を紹介したり、他の機関との連絡調整を行ったりしている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに共生できるように、出来ることは、お手伝いしていただきながら、支えあっている状況である。また、お手伝いして頂いた後は、感謝のお礼を忘れないようにしている		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちができることはホームでおこなうが、ご家族じゃなくては出来ないことは、ご家族へお願いしている。ご家族の面会・外出などが、利用者の喜びでもあり、精神安定剤となることをお話する。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂けるように、面会時間も決めずに、相手方の都合のよい日・時間に来ていただけるように対応している。	利用者の友人や元同僚の訪問がある。職員は、利用者が今まで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、関係が継続出来るように支援をしている。また、家族と相談しながら、協力をお願いすることもある。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで寛げる空間・ソファの配置を行い、そのソファの中心でスタッフが記録を行い、常に見守りができるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人の家族と町中で言えば、お話ししたり、近況を伺ったりしている。利用者のご主人は、ここに面会に来ることが楽しみだったので、亡くなられた後も、スタッフに会いに来てくださいます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の好みや習慣を把握し、意向の表出の出来なくなった利用者に対しては、目の動き・表情等をしっかり察知し、安心して暮らせる支援をしている。	職員は、利用者の視点に立って、本人の意向の把握に努め、表情や独り言を見逃さず記録し、家族等の知恵を借りて、実現が困難な意向に対しても聴き取り、少しでも前向きに進むように工夫している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に生活歴など伺ったりするが、まず本人さんとのコミュニケーションの中で伺いながら把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お手伝いしたい方、ゆっくりしたい方、いろいろ構われたくない方など、把握して対応している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直し、利用者の状態変化に合わせて、その都度家族と連絡を取り、計画の見直しを実施している。また月に1度モニタリングによる報告書を家族に郵送している。	介護計画は、利用者や家族の希望を取り入れ、関係者で検討し、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の急変時に備え、家族と連絡を密に取りながら、その都度、見直しを図る体制を確立させている。介護計画は、ホーム独自の判りやすく簡潔な書式で作られている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することで、今後の本人にとって必要なことなども見えてくることが多いので、気づきは記録へ残すように指示している。その記録から、介護計画の維持・変更が見えてくるようになっている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	こだわったケアではなく、その方に合った新しいケアを見つけ出せるようにスタッフ会議等にて、みんなの意見・他施設の意見をうかがったりして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人ができることはお手伝いもして頂き、たくさんのお礼を伝え今後に活かし、出来ないことは、利用者・スタッフで協力しながら支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、さまざまであるが、調子が悪い際などは、その方のかかりつけ医に直接電話対応にて判断して頂き対応頂く。緊急時の医療連携体制を確立し、24時間365日安心して過ごせる支援を実施している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。また、協力医療機関と連携し、24時間いつでも対応出来る医療連携体制を確立させている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護士も同じ業務内容でもあるので、常時看護師も日常の利用者の状況を把握している。その中でも、看護師の判断が必要な際は、看護師からの指示に従ってケアしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係機関との勉強会に参加して、関係づくりができるようにしている。また、入院された場合は、ご家族・ホーム・かかりつけ医との協議のもと、退院の時期を早くできるように心がけている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の時期になると、今後のことについて、ご家族の意向(病院・ホーム・自宅)を伺いながら、ホームで出来ることなど説明して決断して頂く。家族の協力のもとに、利用者の重度化や終末期を迎えた時、安心して過ごせる協力体制と職員間のチームワークの構築を目指している。	利用者の重度化に向けた支援体制は、利用者や家族の今後の意向を優先し、納得されるまで話し合い、関係者全員が、方針を共有し、利用者が、いつまでも安心して、暮らせる支援体制を構築している。また、医療機関の研修参加等で関係を深め、支援体制を強化させている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回、救急救命士による応急手当による心肺蘇生法の訓練を受けている。また、急変時は、看護師の指示に従いながら、かかりつけ医への報告を行い、判断を委ねるようにしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下の防災訓練と、自衛消防による避難訓練を実施している。近隣の方にも、ご協力して頂けるように常に声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に掲げている、自由意志・自由選択を実行するために職員間で常に話し合い、利用者の人格を尊重し、なじみの関係を継続している。また、個人情報、スタッフ室の人目に触れない場所に保管している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保を徹底し、職員間で常に話し合い、理念を唱和しながら、支援をしている。また、個人記録は、鍵をかけ人目につかない場所で保管している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かの行動前に、本人さんの意志を聞くようにしているが、介護上で本人がいやがられてもしなくてはならない時もあります。その際は、本人が苦痛のないように上手に声かけを行うように心がけている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員の希望にそった対応は難しいが、一人ひとりのペースにあわせていくように心がけている。デイの時間の過ごし方など、午睡が必要な方は声かけをしたり、寒がりな方には膝掛けをしたり、日々の利用者の状況を把握して対応している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族が、本人さんのなじみの服や、好きそうな衣類を用意して頂いている。毛染め・パーマをしたいと言われる方は、近隣の美容室で行ってもらうことでオシャレして頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理の下ごしらえをし、時には料理を教えて頂いている。お手伝いできることを、利用者も喜んであり、スタッフもお礼をたくさん伝えるようにしている。	利用者一人ひとりの性格や力によって、盛り付け、配膳、「いただきます」の号令等、役割分担をしている。利用者と職員が、同じテーブルで同じ食事を談笑しながら賑やかに一緒に食べている光景は、非常に家庭的で温かい雰囲気である。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックしている。また、食事量も大食・少食と盛りつけの仕方をその方に合わせて、その方に対しての食事量をチェックしている		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っているが、歯磨きがお好きじゃない方は、無理強いしていない。また、うがいのみで対応している方もおられる。その個々で合わせている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のオムツ使用者はいない。職員は利用者の排泄パターンや人柄を把握し、自立支援に向けたさりげない誘導を実施している。トイレで排泄する気持ちよさを継続して頂きたい。	「出来るだけトイレで排泄をしてもらおう」と、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、細やかな声掛けや誘導で、排泄の自立に向けた支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操はAM・PMに行っているが、体力のない方には難しいので、食事療法・薬物療法にて対応している。個々に合わせた薬物療法を行っている		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は毎日、昼から夕方まで、快適な入浴のサービスを提供している。入浴拒否の利用者には無理強いせず、お願いして気持ちよく入ってもらっている。また、血圧・体温の状態、入浴禁止などの判断も行なっている。	入浴は自由で、利用者の希望で午後から毎日入る事も出来る。入浴前にバイタルをチェックし、利用者の健康状態を把握して入浴の支援をしている。また、入浴したくない利用者には、無理強いをせず気長に支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	きつそうにしてある際は、声かけにてベッドへ休まれるように促し、無理のない一日を過ごして頂くようにしている。また、状态的に要観察が必要な方は、氷ンクハットで休んで頂いている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している処方箋を頂き、どのような薬を服薬しているか把握している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、できることを見出して、お手伝いをして頂いたり、月4回レクリエーション・月2回外出を企画して楽しんでいる。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に買い物・散歩・ドライブレクリエーションなど、利用者の心身の状態に合わせ、日常的な外出の支援をしている。	月に2回の外出行事、週2回の買い物等、利用者の状態を見ながら外出の支援をしている。日当たりの良いリビングから続く広いウッドデッキのベンチで食事したり、お茶を飲んだりする事も利用者の大きな楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布を自分でもって管理されてある方がおられるが、実際、外出の時に使われることはない。使う喜びではなく、持っている喜びのほうがある様子。なくされないように、見守り行なっている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族へ電話したいと言われたら、電話対応して安心して頂いている</p>		
54	2.2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>窓の大きな居間は、日当たりが良く開放的で、家庭的な温もりある畳敷きで、利用者が穏やかに過ごせる場所である。</p>	<p>木造住宅特有の温かみのある居間は、日当たりがよく、大きな窓から眺める景色は素晴らしい。落ち着いた畳の間からは、利用者や職員の明るい笑い声が聞こえ、穏やかに楽しそうな共用空間になっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人で過ごしたい際は、居室を利用されたり、気のあった利用者同士でソファに座られたりして頂いたりしている</p>		
56	2.3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅と出来るだけ違和感を感じない部屋づくりをご家族に用意して頂いている。利用者が安心して過ごせる環境にして頂いている。</p>	<p>家族の協力を得て、居室は、利用者が使い慣れた、箆笥やベット、鏡や仏壇等を持ち込んでもらい、自宅と違和感のない雰囲気、利用者が居心地よく過ごせる居室になっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差解消・手すりの設置を行い、できないことがないように環境整備を行っている</p>		